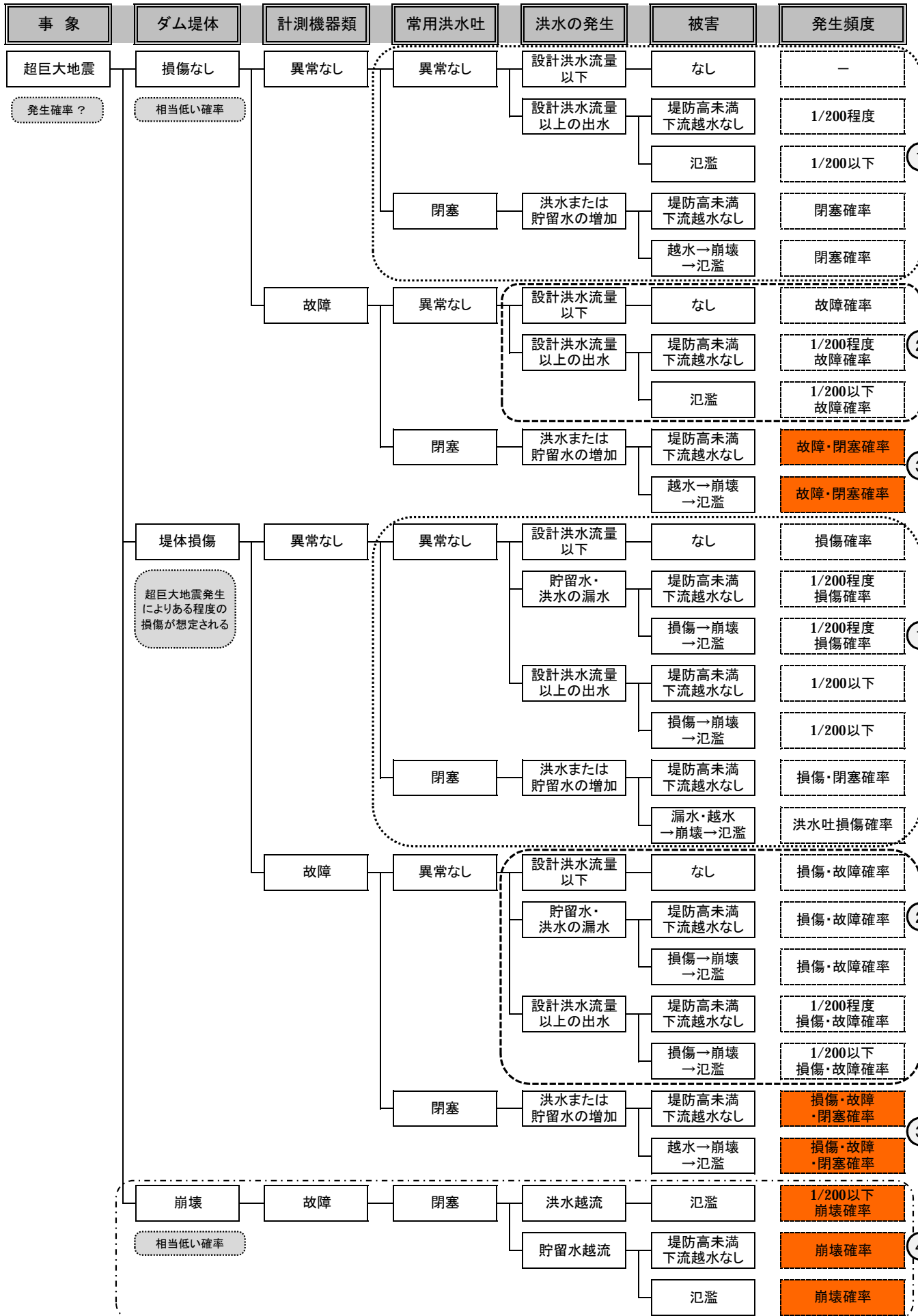


貯留型



① 観測データによりソフト対策を検討(避難指示等)

② 貯留・放流の機能は維持

① 観測データによりソフト対策を検討(避難指示等)

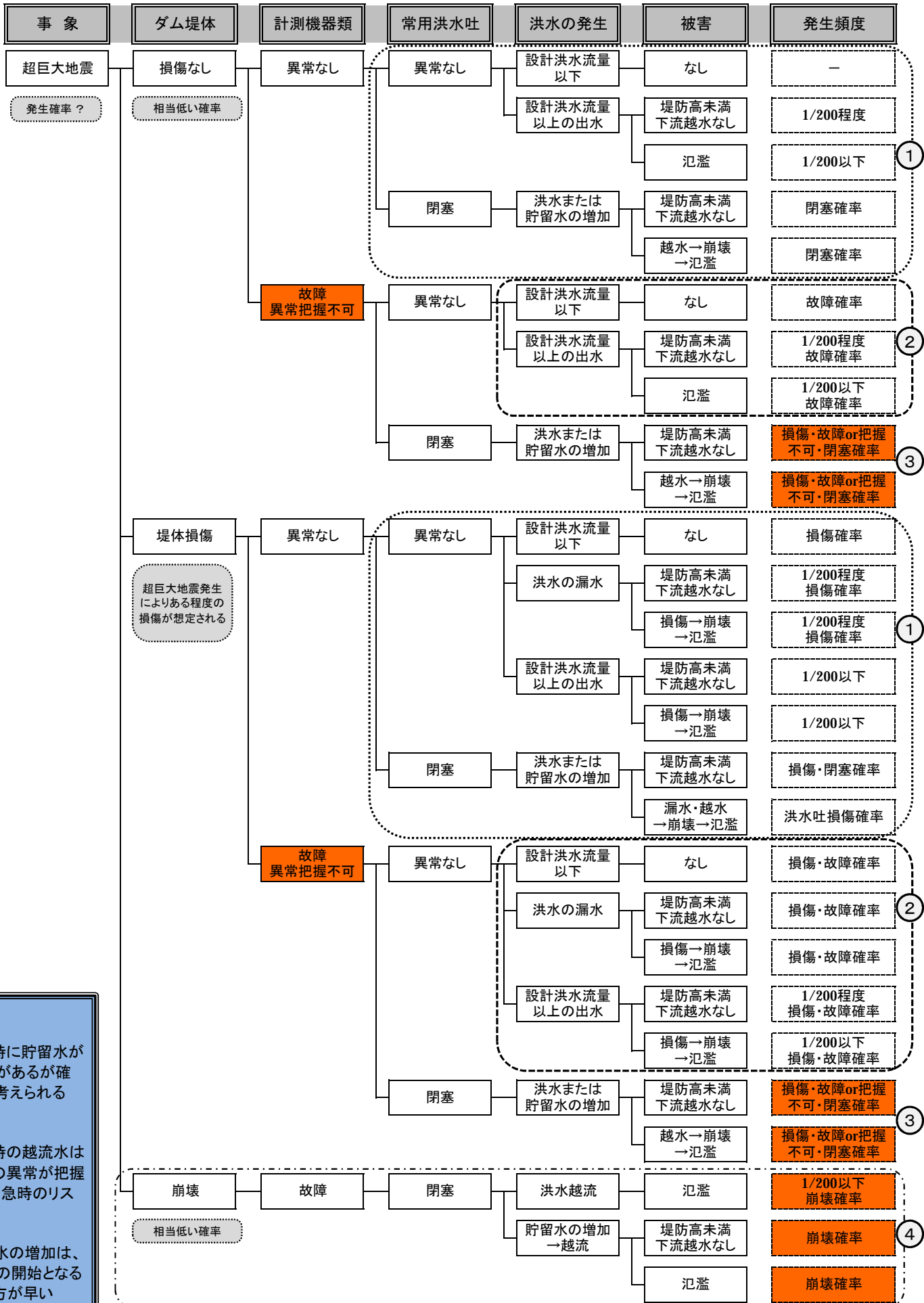
② 貯留・放流の機能は維持

貯留型)
堤体損傷・崩壊時に貯留水が越流する可能性があるが確率は相当低いと考えられる

流水型)
堤体損傷・崩壊時の越流水はないが、機器類の異常が把握できないため、緊急時のリスクが懸念される

閉塞による貯留水の増加は、常時満水位からの開始となるため、貯留型の方が早い

流水型



※各確率 崩壊＝堤体が崩壊する確率 損傷＝堤体が損傷する確率 故障＝機器類が故障する確率 等
※被害規模については考慮していない